

第 2 学年 社会科 学習指導案

【本時の主張】

江戸時代の農村や百姓の生活の変化を、地域資料を通して追求していく授業である。諸国産物番付が作成されたように、様々な特産物が江戸時代各地で作られていた。越後でも現在の小千谷縮が江戸時代に特産物として作られるようになり、高級品として全国に流通するようになった。

なぜ江戸時代に小千谷縮が多数作られ、全国で売られるようになったのかを「作り手」「売り手」「買い手」の三つの立場を班で分担して調べる。本時では、それぞれの立場の発表を通して、小千谷縮が作られるようになった理由をまとめていくことで、生徒は多面的に考えられるようになり、地域の変化と全国とのつながりにも気付くことができる。さらに、小千谷縮を売った百姓がどうしたのかを考えることにより、自給自足的だった地域の農村にも貨幣経済が浸透してきたことに気付かせたい。

1 単元名 産業の発達と幕府政治の動き

2 単元の目標

- 産業の進歩の要因やもたらした変化を資料を通して気付き、様々な意見、資料から多面的に考察することができる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用能力	社会的事象についての知識・理解
産業の発達と社会の変化について関心を持ち、意欲的にそれらについて調べている。	幕府政治の改革について調べ、それぞれの改革が時代に適応していたか、内容と結果をもとに考察している。	産業の発達による社会の変化と政治改革の内容を資料を基に読み取っている。	江戸時代の様々な社会変化と幕府政治の改革の関係について理解している。

4 単元と指導の構想

(1) 単元について

本単元は、江戸幕府が安定から改革へと移り変わっていくことを学ぶ単元である。

本単元では、農業技術の発展や全国的に特産物が作られたことや商業の発展などの民衆の社会変化を最初に取り上げ、その後に幕府の政治改革(享保の改革、田沼の政治、寛政の改革、天保の改革)について学んでいく。これまでは、幕府の政治改革で何が行われたかを重点的に学び、民衆の社会変化については深く学ばせることが少なかった。

そこで、新潟県の特産物である小千谷縮が江戸時代に作られ始めたこと理由を追究し、地域の変化が全国とのかかわりの中で起きたことに気付かせていく。そして、商品を作ることでそれまで自給自足的だった農村が貨幣経済へと組み込まれ、民衆の生活が変化することに気付かせていく。民衆の生活の変化を学ぶことにより、この後の幕府の政治改革の内容が、時代の変化にあったものであったのかを、自分なりの視点で多角的に考察する力を養うことができると考えられる。

(2) 生徒の実態

全体的におとなしく授業にもまじめに取り組む生徒が多い。教師の指示を素直に聞き、作業にもまじめに取り組むことができている。しかし、分かっているが周りを見てから行動する生徒や、話し合い活動で積極的に自分の意見を言う生徒は少なく、やや積極性に欠ける面も見られる。また、自分の言葉で考察することが得意な生徒はまだ少なく、今後の課題であると考えられる。

NRT の結果からは、地理分野よりも歴史分野の方が正答率が高い傾向が見られる。定期テストでは、学級内での学力差が比較的大きく、家庭学習の定着が図られていない生徒も多い。前期の学習アンケートでは、社会の授業がよく分かる、大体分かると答えた生徒は 92 %、学習したこと的基础基本をいつも活用しようとしていると大体しようとしていると答えた生徒は 92 %、仲間とかかわりあってかなり学習できた、かかわりあって学習できたと答えた生徒は 97 %と自己評価では高い評価を出している。

社会科の授業は 10 月までは地理の授業を行っており、歴史については 11 月から学んでいる。地理の授業では、資料を読み取り黒板を使って自分の意見を発表し、他者の意見を確認し合う場面をつくってきた。しかし、多数の意見から話し合い、まとめていくという時間は少なかった。歴史の授業では、個々に追究する場面を作り、それをお互いに交流しまとめることで、多面的・多角的に考察できるように取り組ませていきたい。

(3) 指導の構想

本単元では、多面的・多角的に考察する力を付けるために、グループによる追究学習を取り入れ、生徒同士の考えを交流できる場を設定する。追究していく題材は小千谷縮である。新潟県の特産物として代表的な物であり、地域教材として生徒の興・味関心をひくことができると考えられる。また、小千谷縮は江戸時代に改良されて作られたものであり、なぜ小千谷縮が作られるようになったのかを追究することにより、全国とのかかわりにも気付かせることができる。

生徒は社会科の追究学習にまだ慣れていないので、生徒にとって考えやすい「作り手」「売り手」「買い手」の三つの立場から追究を行っていく。それぞれの追究したことの発表の要点をまとめ、小千谷縮の変化をまとめることで多面的に考察することができる。

地域の変化が全国とのかかわりの中で起きたことに小千谷縮を通して気付き、小千谷縮を生産し売るようになった農民の生活の変化を学ぶことにより、全国に貨幣経済が浸透したことを理解できると考えられる。

それまでの自給自足的生活から全国的に貨幣経済へと民衆の社会生活が変化した視点をもつことにより、この後の江戸幕府の政治改革、享保の改革、田沼の政治、寛政の改革の内容を百姓や町人、武士の立場から社会変化に適した改革であったのかを比較検討し、多角的に考察することができると考えられる。

5 単元の指導計画

時	学習のねらい(○)と主な活動内容(・)	評 価				
		関	思	資	知	評 価 規 準
1	○ 幕府政治がなぜ改革を必要とし、明治新政府になってしまったのか予想し、興味・関心をもつ。 ・幕府政治がなぜ安定したのか確認する。 ・江戸幕府に何が起きたのか予想する。 ・日本全体に何が起きたのか予想する。	○	○			・江戸幕府や日本全体に何が起きたのか予想し、文章にまとめ、友人と意見を交換している。
2	○ 小千谷縮が作られるようになった理由を予想し、様々な視点から追究し、発表をとおしてまとめる。 ・小千谷縮が作られるようになった理由を予想す			○	○	・小千谷縮が作られるようになった理由を予想する。

3 本時	<ul style="list-style-type: none"> る。 ・「作り手」「売り手」「買い手」の三つの立場から、追究する。 ・三つの立場からの発表をもとに、小千谷縮が作られるようになった理由をまとめる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・小千谷縮への変化の理由をまとめ、発表する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な特産物が作られるようになり、その結果、起きた農村の変化について考察する。 ・小千谷縮を生産し売ようになった農民の生活の変化について予想する。 ・米の値段の変化や、農家の収入、支出のグラフから農村の暮らしについて考える。 	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・農村の変化について、資料からまとめている。
5 6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幕府政治の改革が産業や経済の発展の中で実施されたことを理解する。 ・武士と農民の収入の差を比較し、なぜ改革が必要であったのか考える。 ・享保の改革、田沼の政治、寛政の改革の内容と結果を調べる。 		○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・改革が行われた背景について進んで調べ、三つの改革の内容について進んで調べている。
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幕府政治の改革を、内容と結果から成功か失敗であったかを考察する。 ・三つの改革を比較し、社会変化とあったものか、考える。 ・田沼の政治と寛政の改革の内容と結果を調べ、比較する。 		○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・三つの改革の内容と結果について比較し、どの改革が時代に合っていたものかを自分なりにまとめている。

6 本時の学習（全7時間、本時3時間目）

(1) 本時のねらい

三つの立場からの発表を基に、小千谷縮が作られるようになった理由を多面的に考察し、まとめることができる。

(2) 本時の構想

前時では、江戸時代の越後の特産物番付から縮が新潟県の特産物として全国に有名であり、最高級品として取り扱われてきたことから、なぜ江戸時代に白布から高級な縮へと変化したのか「作り手」「売り手」「買い手」の三つの立場から、追究させている。本時はその2時間目であり、追究してきたことをまず班でまとめ、それらをクラスで発表し合い、お互いの立場をふまえて、自分の考えをまとめていく。このような過程で小千谷縮が作られるようになった理由を考察していくことで、地域の変化が全国的なつながりのもとで変化してきたことに気付かせていきたい。そして、その気付きを今後の学習につなげ、江戸時代に多くの社会変化が起きたことに気付かせていこうと考えている。

(3) 本時の展開と評価

学習内容・活動	主な教師の働き掛けと生徒の反応	指導上の留意点と評価
<p>○ 前時からの内容の確認</p> <p>○ 調べてきたことのまとめ</p>	<p>○ なぜ、江戸時代に小千谷縮が作られるようになったのか、調べて交流しよう。</p> <p>○ 三つの立場で調べてきたことを班でまとめ、クラスのみんに発表し合おう。</p> <p>「作り手側」</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代に様々な農業技術の発展がおき、小千谷にも進んだ技術が上方から伝えられた。 他地域でもそれまで作っていた白布と同じものが作られるようになり、新しい商品を作らなければならなくなったこと。 <p>「売り手側」</p> <ul style="list-style-type: none"> 西回り航路や五街道などが整備されたり、参勤交代により道路や宿場が整備されたりし、安全に商品を全国に流通できるようになったこと。 貨幣が全国で統一されたことにより、全国で販売しても同じ利益を得られるようになったこと。 <p>「買い手側」</p> <ul style="list-style-type: none"> 新田開発や人口の増加により大名の年貢収入が増えたことでぜいたくな暮らしが可能になったこと。 江戸や京都、大阪などの大都市が形成され商業の発展が起き富裕層が増加したこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 追究する視点の提示 「作り手」 「売り手」 「買い手」 小千谷縮の実物の展示 ワークシートを用いて他班の発表をまとめられるようにする。 ホワイトボードなどを使用し、分かりやすく発表できるように工夫させる。
<p>○ 班での発表を基に理由をまとめよう。</p>	<p>○ 三つの立場からの発表を基に、小千谷縮が作られるようになった理由をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代になると様々な農業技術が全国に伝えられるようになった。麻布を作ってきた魚沼地域では、他産地との競争するようになり、新しい商品を作る必要があった。新しい技術を用いて作られた商品が小千谷縮である。その頃、全国では、流通網が発展し全国に安心して商品が届けられるようになった。また、人口増加や大都市の形成、商業の発展により富裕層が増加し、最高級品とされた小千谷縮が全国で買われるようになった。これらのことにより小千谷縮がたくさん作られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで自分たちが調べた一つの立場でだけ考えていたことを、三つの立場の発表をふまえて多面的に理由を考えるように働き掛ける。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小千谷縮が作られるようになった理由を、三つの立場を基に、自分なりに考えてまとめている。
<p>○ 全国の特産物を確認しよう。</p>	<p>○ 小千谷縮以外に全国では、特産物が作られていたのかを確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国各地でたくさん作られている。 今も残っている有名な特産物の中には江戸時代から作 	

られているものが多くある。 ・小千谷だけでなく全国で様々な特産物が作られるようになった。
